

■大きな膨張速度を持つI Ib型超新星SN 2010cnの早期観測 ■

○奥嶋貴子、山中雅之、川端弘治(広島大学)、田中雅臣、前田啓一(東京大学)、笹田真人、伊藤亮介、小松智之、先本清志、原尾達也、植村誠、吉田道利、大杉節(広島大学)

序論

I Ib型超新星

- 初期スペクトルで水素の吸収線が見られるが、後期には弱まる・消える。
- 重力崩壊型超新星のうち、外層の水素をはぎとりつつある親星の爆発

親星や進化の描像、爆発機構など不明瞭…

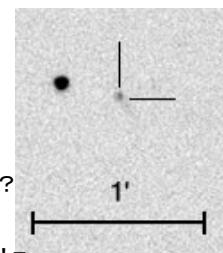
最近注目の話題

- I Ib型は親星の水素外層が薄い状態で爆発した?
- 親星の爆発直前の構造は環境に依存するか?

そもそも、Ib/cに比べI Ibはwell-observedなサンプルが希少である!E

■今回報告するSN 2010cn ■

水素とヘリウムの吸収が共存していることから、SN 1993JのようなI Ib型に分類される一方、XRFを伴ったIc型超新星SN 2006ajとの類似性も報告された(CBET 2270)。host銀河が暗いことからも、金属量が少ない環境である可能性がある。



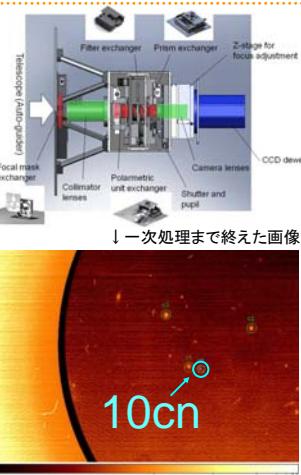
←SN 2010cnの discovery image. host銀河には非常に暗い。

SN 2010cn (I Ib)
discovery date : 2010/05/04.05 (UT)
host z = 0.026
R.A. = 11h04m06s.57
Decl. = +04° 49' 58".7

観測

- スペクトルにおいて、blue continuumの卓越している非常に早期と思われるbroad-Ic (or I Ib)の超新星として報告された。それを受け、我々は観測を開始した。

測光



かなた望遠鏡HOWPol
(一露出型偏光撮像装置)

- 広島大学では、大学の所有する1.5mかなた望遠鏡に取り付けられたHOWPol (FOV: 15'φ)を用いて2010/05/07 (UT)から2010/06/03 (UT)まで測光観測を行った。

Filter B,V,R,I
露出時間 (B) 250 - 320 s
(V) 150 - 200 s
(R) 100 - 200 s
(I) 100 - 150 s

結果

ここでは主に、SN 1993Jとの比較を中心述べる。
■ SN 1993J…
■ プロトタイプType I Ib

測光

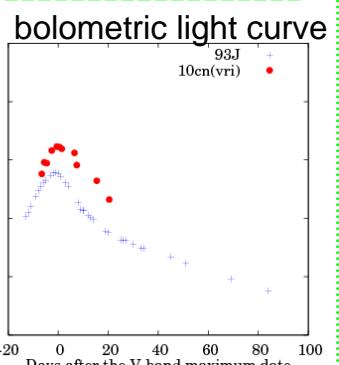
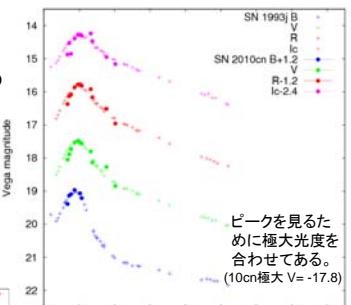
- SN 1993Jと比べると、増光速度は大きいが減光速度は似ている。

■ Color

時間 - 色の図は右上がりで、時間がたつほどに赤くなっている。

- bolometric light curve
SN 1993Jよりも、総じて1.5 - 2.0倍明るく、エネルギーが大きいことがわかる。

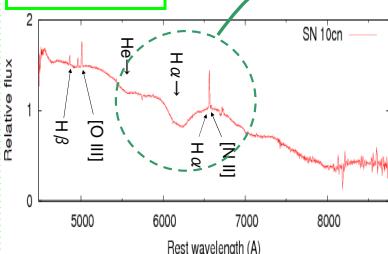
light curve



分光

- 2010/05/06(UT)にToO観測としてすばる望遠鏡FOCASを用いた偏光分光観測を行った(PI:田中)。ここで、分光データを使用する。

分光



host銀河の輝線より金属量
12+log(O/H)を求める

- H α, [NII] から 8.22(1)
- H α, [NII], [OIII], H β から 8.21(1)
- ... Pettini & Pagel (2004)

(奥嶋卒論図参照)

- H α 吸収線の速度は約16000km/s
- SN 1993Jよりも約2000km/s速い
- SN 1993J(I Ib)…爆発から+14日
- SN 1987A(I Ip)…爆発から+1日
- SN 2006aj(Ic)…爆発から+5日

まとめ

- 速さ・光度変化のタイムスケールなどから、ejectaの運動エネルギーは、XRFを付随した08Dやbroad-Ic の03jdと同程度かそれより大きいと推定される。
- 10cnの金属量(~8.2)はGRBを付随した超新星(< 8.1)と08Dとの中間的な値を示す。

我々は、中小口径望遠鏡(かなた)および大口径望遠鏡(すばる)の観測から、超新星の初期の物理量と、環境の依存性(e.g. 運動エネルギー V.S. 金属量)の探査を継続しているが、本ポスターで紹介した10cnはその対応性の中で新たな位置づけとなる可能性を示唆した。

